



2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立祥栄小学校 】

1 実践テーマ	II ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	5年 2クラス 72名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (総合的な学習の時間)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障がいがある方たちと共生する社会について考える。 ・車椅子バスケット選手の方の話を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>(1) 車椅子の乗り方・介助の方法について知り、使用者がどのような苦労や工夫をしているか知る。</p> <p>(2) 車椅子の体験を行い、生活する上ではどのような問題があるか予想し、調べる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(3) 車椅子バスケットというスポーツについて知り、競技用車椅子で走行体験・車椅子バスケット体験をする。</p> <p>(4) 車椅子バスケットの競技者から話を聞き、誰もが気持ちよく暮らせる社会の在り方について考える。</p>

	<p>(5) 車椅子バスケットの競技者からの講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。友達との意見交流やこれまでの学習を通して、誰もが気持ちよく生きられる社会の実現に向けて自分の考えをもち、実践していこうという心情を養う。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>講師2人の方は、『交通事故が原因で車椅子での生活を余儀なくされた。最初は、足が動かなくなったという現実絶望し、受け入れることができなかつたが、ともにリハビリをしている人のがんばりや家族をはじめ、仲間の励ましなどに支えられて頑張ることができた。そして、車イスバスケットに出会ったことで、さらに人生が豊かになった』ことを話された。子どもたちは、講師の方の話をとて集中して聞き、感動した様子だった。</p> <p>『また、今生活する中でとても気がかりである』と、違法駐輪やごみのポイ捨てについての話があった。また、『車椅子を使う人にとって、ガムの吐き捨ては、車いすで踏むことにより直接手で触れてしまい、非常に困り、大変だ。』ということだった。</p> <p>それらの話を聞いて、子どもたちは、すべての人が社会で大切にされ、共に生きていくために必要なことを改めて考えられる機会となった。</p> <p>学校の中で調べ学習をするだけでなく、実際に経験されている方の話には説得力があり、ふれあうことで実感を伴う理解をすることができた。</p> <p>～児童の感想文より～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車イスを実際に動かすのはとても難しかった。でも講師の先生は、とても上手に早く移動することができていてすごいと思った。 ・車イスに乗ってバスケットをすることはとても難しかったけど、パスを出し合つて、シュートが入ったときはとてもうれしかった。 ・勝手に歩道に自転車をとめることは、車イスに乗っている人や目の不自由な人にとってとても迷惑なことだと思った。また、ポイ捨てなどは汚いだけでなく危ないことがわかり、絶対にやらないといけないと分かった。 ・仲間や家族に支えられてとても前向きにがんばっておられることが分かった、つらいことや悲しいことがあつても、くじけずに頑張っていこうという勇気がもられた。 ・パラリンピックがとても楽しみになった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 車椅子の体験や介助体験を行い、課題意識をもって学習にのぞめた。 • 車椅子バスケットのルールやチームなどについても事前に調べた。 • 子どもたちの活動を多く取り入れ、体験を伴った確かな理解へとつなげられるようにした
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちにとって、実際に触れる活動はとても有意義な取組となる。継続的に取り組めるように予算の確保をしていきたい。 • 保護者や地域の方にも参観してもらい、学習内容の周知や啓発活動もしていきたい。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 本校では、1年～6年の人権教育の一環として、毎年5年が車椅子体験を行う学習計画を立てている。来年度も、車椅子バスケットの選手に来ていただき、講話を聞いたり、車椅子バスケットの体験をしたりして学習を深めていきたい。また、車椅子駅伝等、様々な競技の方のお話も聞けるように広げていきたい。